

日本比較文化学会関西支部 10 月例会のお知らせ

猛暑と豪雨、コロナ自粛の夏でしたが、関西支部会員の皆さまには、お元気でお過ごしでしょうか。以下の通り、関西支部 10 月例会を開催いたします。今回は、対面でのキャンパスの会場とオンライン (Zoom) をつないだハイブリッド形式の開催となります。万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

また、今年度 (2021 年 9 月～2022 年 8 月) の関西支部会費納入の案内と振り込み用紙も同封いたしました。よろしく願いいたします。

日時：2021 年 10 月 2 日 (土) 14:00-17:10

対面での会場：同志社大学今出川キャンパス (京都市上京区) 良心館 408 教室

<https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/imadegawa/overview.html>

オンライン会場：Zoom

Zoom オンラインで例会にご出席される支部会員は、裏面に記載の関西支部事務局 (北林) に、例会前日までに、電子メールで連絡をお願いします。いただいたメールに返信し、当日の Zoom URL、パスワード等をお伝えいたします。

■ 研究発表 14:00～16:10

龐 朝霞 (奈良女子大学博士後期課程生活環境科学専攻)

「日中における災害文化を巡る検討

—なぜコミュニティが中国災害文化の主体ではないのか—

道合裕基 (京都大学吉田南総合図書館学術情報掛)

「松本清張「穴の中の護符」におけるコナン・ドイル、岡本綺堂からの影響について」

清藤隆春 (徳島大学特任助教／九州大学大学院地球社会統合科学府博士後期)

「多文化共生に果たす地域仏教寺院の役割とその社会的機能

—SCAT によるベトナム仏教法要参加者の語りの分析から—

佐古恵里香 (京都精華大学非常勤講師)

「中上級日本語学習者の中間言語における段階性に関する一考察：

サピア・ウォーフ仮説を援用した学習者のイラスト分析を通じて」

■ 講演 16:20～17:10

野村幸一郎先生 (京都橘大学文学部教授)

「二・二六事件から三島由紀夫へ」

* 今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、全面的にオンライン例会になる可能性もあります。その場合、学会のサイト (<https://hikakubunka.jp/>) でお知らせいたしますので、対面で例会にご参加の前には、学会のサイトを必ずご確認ください。

*会場校の「新型コロナウイルス感染拡大防止に関するガイドライン」により、各自、マスクの着用と手洗いの励行をお願いいたします。また、例会中は、扉や窓を開放し、換気をいたします。

*今回は、懇親会はありません。

今後の予定

第43回全国大会・2021年度国際学術大会

2021年9月19日（日）オンライン

シンポジウム・テーマ：「比較文化学のスキームを求めて」

関西支部12月例会

2021年12月18日（土）14:00～17:00

同志社大学今出川校地（予定）

研究発表をご希望の支部会員は、下記事務局までお願いいたします。

中四国支部・九州支部・関西支部3支部合同研究会

2021年12月19日（日）13:00～17:00 オンライン

本年度の担当支部は、中四国支部です。研究発表申し込みは、近日中に学会サイトで告知がありますが、詳細は、中四国支部にお問い合わせください。

関西支部3月例会

2022年3月19日（土）

同志社大学今出川校地（予定）

研究発表をご希望の支部会員は、下記事務局までお願いいたします。

日本比較文化学会関西支部事務局（京都橘大学国際英語学部北林研究室内）
北林利治 VZV00407@nifty.com（大文字 VZV、00407 は数字です）